

体育指導委員から抱負

新任体育指導委員より

体育指導委員には、20年以上のベテランから新任の方までいますが、その中でも指導1〜2年の体育指導委員7人から抱負を語ってもらいました。

◆体育指導委員 佐藤多佳子さん（平沢）
どこに行くにも車で、なかなか歩くことのない私ですが、こしはなんとか調整をとってウォーキングの行事にも参加したいと思っています。

◆体育指導委員 佐藤祐子さん（院内）
さまざまな活動があり、驚きとともに不安を感じました。しかし、先輩体育指導委員の皆さんや職員の皆さんの支えのおかげで何とか頑張れています。

◆体育指導委員 中田礼子さん（赤石2区）
まだまだ戸惑うことが多く、ご迷惑をおかけすることと思います。それでも自分にできることを精一杯頑張ります。

県や由利地域の研修会に参加したり、自分たちで事業を主催し、企画した事業と一緒に運動をしましたが、参加された方々の笑顔がステキです。

さまざまなスポーツがありますが、これらよりも多くの方がスポーツに親しんでいただけるよう努力していきたいと思っています。

◆体育指導委員 渡辺博志さん（赤石2区）
仕事などの都合により、参加できないものもあり残念に思っています。

この反省を踏まえ、今後も「にかほ市をにぎやかにする」お手伝いをしたいと思っています。微力ではありますがよろしくお願います。

◆体育指導委員 齊藤 猛さん（新丁1区）
聞いたことのないことばに戸惑いを感じましたが、ウォーキングやミニテニスなどの事業に参加していくにつれ、分かるようになりました。これからは、スポーツの実技指導、助言を先輩方と行っていききたいと思っています。

◆体育指導委員 石山さおりさん（花潟区）
軽い返事で受け体育指導委員の仕事をしてみて、さまざまな行事で活躍していることを知りました。

私自身も体育指導委員をやったお陰で、自分の夢でもあった「キッズダンス」のサークルも立ち上げることもでき、これからもいろいろな面で力になっていければいいなと思っています。

◆体育指導委員 斎藤和子さん（本郷）

「体指」この文字に違和感を持たなくなつたのは2年目に入ってからです。

初めは「大使」と思っていました。

にかほ市体育指導委員の皆さんの顔は少しずつ覚え、ウォーキングの仕事は楽しみながらやっています。とても、真面目、熱心な皆さんだと感じています。

私自身が楽しめなくては、参加した方々に申し訳ないので、「思考」と「行動」のバランスを保ちながら、また1年やっていきたいと思っています。

放課後子ども教室への指導



各公民館では、地域の子どもたちが、学校の枠をこえてさまざまな体験をしています。スポーツ活動は体育指導委員が協力しています。

◆体育指導委員 斎藤和子さん（本郷）
「体指」この文字に違和感を持たなくなつたのは2年目に入ってからです。

初めは「大使」と思っていました。

にかほ市体育指導委員の皆さんの顔は少しずつ覚え、ウォーキングの仕事は楽しみながらやっています。とても、真面目、熱心な皆さんだと感じています。

私自身が楽しめなくては、参加した方々に申し訳ないので、「思考」と「行動」のバランスを保ちながら、また1年やっていきたいと思っています。

今後もしも引き続き、体育指導委員の皆さんの企画により、市民の皆さんが気軽に楽しめるスポーツ教室などを行い、心身のリフレッシュと家族の触れ合いの場を提供していきたいと考えています。

問合せ先 スポーツ振興課 ☎33・8855

ニュージーランド



白瀬中尉のご縁で深まる交流

ニュージーランド・ワイタティア市を訪問

親善訪問団12名が異国の友人と交流を深める

2月12日から19日の日程で、「にかほ市」発足後2回目となる親善訪問団（仁賀保・金浦・象潟中学校の生徒10名と引率2名の計12名）が、ニュージーランド・ワイタティア市を訪問しました。昨年、クライストチャーチ市からにかほ市を訪れた生徒たちを中心とした9つの家庭にホームステイをしながら、交流を深めました。

訪問団スケジュール

2月12日	金浦発→秋田空港へ（日本出国）
2月13日	クライストチャーチ到着 ホストと対面
2月14日	ホストと自由行動
2月15日	ホストと自由行動
2月16日	学校訪問→カンタベリー博物館
2月17日	南極センター→マオリ族の工芸体験→お別れパーティーなど
2月18日	クライストチャーチ発 →韓国・仁川空港へ
2月19日	仁川空港→秋田空港（日本入国）→金浦着

カンタベリー博物館前にて



マオリ族の工芸にチャレンジ

団長の報告書より

にかほ市国際交流協会副会長
ニュージーランド委員長
佐藤吉樹さん

ニュージーランドは時期的には夏なのですが、滞在期間中は肌寒く小雨が降る日もあり、夏の陽気な気候ではありませんでした。

白瀬南極探検隊記念館と姉妹館のカンタベリー博物館では、世界の南極探検家のスコットやアムセンたちが探検時に使用された道具や食料などの展示品の説明を受けました。

金浦出身の白瀬南極探検隊長のブロンズ像、開南丸の模型、日章旗などが世界の名だたる探検家と肩を並べて展示されている様子に、胸が熱くなりました。

また、南極センターも見学。ペンギンとの触れ合い、雪上車に乗車し、車体の揺れや傾き、水上走行を体験したり、南極のブリザードを実際に体感することができました。

ニュージーランドの先住民「マオリ族」の工芸にもチャレンジし、装身具の胸輪を作りました。団員たちは、材料のフラックス（独特の草・麻の一種）を使い、夢中になって創作に取り組んでいました。

団員の報告書より

・佐藤梨菜さん（金浦中1年）

日本とは違う事がたくさんありました。線路の遮断機が赤と白だということや、土地が広いから平屋が多い事などです。たくさん学び、英語で会話し、本当に充実した7泊8日でした。

・高橋拓海さん（仁賀保中1年）

ニュージーランドでは15歳から車の運転ができると聞いてとてもびっくりしました。

この訪問はとても貴重な体験でした。たくさんの方にニュージーランドの良さを知ってもらいたいです。